

## 入選

### 一歩一歩

青森県 三本木中学校

一年 舛舘 夏美

私が3歳のときに、足の病気がわかりました。大きくなったら治る病気ではなく、どんどん悪くなっていくそうです。それをなんとか防ぐために、歩く練習がたくさんできる保育園に入りました。

それまでは、歩くのが遅いと誰かがおんぶしてくれました。でも、保育園では、私の歩くのが遅くても、誰もおんぶしてくれません。そのかわり、先生も友だちもみんな私を待っていて、「がんばれー！」と応援してくれました。

その応援のおかげで、ゆっくりでも、時間がかかっても、どんなこともみんなと同じようにゴールを目指してがんばろうと思うようになりました。

小学校までは、担任の先生が私を助けたり、手伝ってくれたりしました。(中学校に入ったらどうなるのかな。歩いたり、書いたりするのが遅いから、みんなに迷惑をかけるんじゃないかな)と、とても不安でした。

初めて中学校の教室に入ると、同じ小学校の女子や保育園がいっしょだった男子がいて、少し安心しました。学校生活で大変なことは、時間割ごとの移動教室です。音楽室・体育館・美術室・理科室と、授業ごとに広い学校の中を、重い道具を両手に持ちながら移動します。

移動は、授業と授業の間の10分間にしますが、着替えたり、トイレに行ったりしていると間に合いません。(みんなと同じように、授業の始まりに間に合いたい) 思って、急いで歩いて転んだり、歩くときに体が右・左にゆれるので、人にぶつかってしまったり、持っている道具やプリントを落としたり。みんなと同じようにしたいけれど、できないことが悲しくて、泣いてしまうこともありました。先生は、

「まだ中学校は始まったばかりだから、できないことがあってもあたりまえだよ。応援するから、一歩一歩がんばっていこう。」とってくれました。

そうです。今までだってみんなに応援してもらって、ゆっくりだけれど、みんなと同じゴールに向かって歩いてきました。私は、みんなと同じことがしたい。でも、同じ速さじゃなくてもいいのだ。ゆっくり、一歩一歩がんばろうと思いました。

そう思うことができたなら、周りの先生や友だちに、とても親切にしてもらっていることに気づきました。集会のときにいすを準備してくれる先生や友だち。左右にゆれる私のために、さっと道を作ってくれる友だち。運動会のリレーで、バトンの練習を何回もしてくれた友だち。

今までも、これからも、私はたくさんの人から親切にもらいながら生活していくと思います。でも、いつかその親切を返せるようになりたいです。保育園のとき、私がゴールするのを待って「がんばれー！」と応援してくれた先生のような保育士になるのが、私の夢です。

私のように、足の悪い子どもがいたら、

「一歩一歩でいいんだよ。最後までがんばれー！」

と言ってあげられるような保育士になりたいです。